

欠席委員からの意見

No.	委員名	意見（指摘）内容
1	鈴木委員	<p>【資料 1 意見No. 18, 19】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回資料1-3の4ページ、8ページでも明らかなように、水収支解析モデルの再現性には流量によっては1桁以上の誤差がある。一方、現実の水資源使用量との関係では、No. 19の項目で提示された表のように、同じ桁の数字であり、工事の影響を検討する必要があることは明白である。よって、「モデルは適正である」と言い切ることは慎むべき。 ・ 「工事完成後の小渋川の流量は、豊水期、渇水期共にほとんど変化せず、影響は小さいと考えています。」という見解についても、1桁以上の誤差を有するモデル計算の結果が、たまたま現況の値と似かよったからと言って、影響は小さいと言い切れるものではないため、表現を再検討いただきたい。
2	鈴木委員	<p>【資料 1 意見No. 24】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地下水及び河川水の水質調査結果（資料編 表6-3-3、表7-2-3）について、再三の指摘により項目すべてが提出された。水質については、電気伝導率、pH、主要溶存成分濃度（Na⁺、K⁺、Mg²⁺、Ca²⁺、Cl⁻、NO₃⁻、SO₄²⁻、HCO₃⁻）のすべてが揃うことによって、そのデータの精度や水の性状を検討することが可能となる。 ・ 資料1-3で示された硝酸イオン等のデータを踏まえ、イオンバランスと電導度バランスを計算し、比較検証した結果、ほとんどの試料について10%以上の誤差があるため、水の性状を検討するには注意が必要である。 ・ 評価書には、現地調査時の気温、水温、現地における水の電気伝導率、pHを含めてすべてを記載願いたい。
3	中村寛志委員	<p>【資料 1 意見No. 42, 44】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ミヤマシジミに関しては、評価書での変更、食草分布調査、生息地代替など保全措置、および事後調査を実施して保全を図っていくことを回答いただいたものと認識している。ミヤマシジミ保全に前向きに取り組んでいただけることを期待したい。
4	中村寛志委員	<p>【資料 1 意見No. 43】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クロツバメシジミに関しては生息場所がピンポイントで分かっているので、回答にあるように工事に伴う変更区域をできる限り小さくする等の環境保全措置を検討して生息環境への影響を避けていただきたい。
5	中村寛志委員	<p>【資料 1 意見No. 46】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 回答にあるように、キマダラルリツバメについては事後調査を実施し、生息ポイントを確認の上適切な保全措置を願いたい。専門的な調査になるときは協力したい。
6	中村寛志委員	<p>【資料 1 意見No. 48】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 確かに方法書では陸産貝類は含まれていないが、ツバクロイワギセルが見つかった限り影響を避けるよう努力を願いたい。現地調査の際には地元の専門家の意見を聞くなどの措置を願いたい。 <p>※飯田市美術博物館で開催された陸産貝類に係るイベント紹介 http://info.iida-museum.org/?day=20130714</p>
7	中村寛志委員	<p>【資料 1 意見No. 49】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハマスズは工事を計画している対岸で確認されている状況ということだが、この種は絶滅危惧 I 類（長野県）であり生息記録が少ない。少なくとも工事区域近傍でハマスズに関する再調査を行い影響が確実に及ばないことを確認していただきたい。
8	中村寛志委員	<p>【資料 1 意見No. 50】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価書において、走光性昆虫に対する夜間照明の影響を低減する技術の追加をお願いしたい。最近では黄色高圧ナトリウムランプなど虫を寄せ付けない照明がいろいろ開発されている。
9	鈴木委員	<p>【資料 1 意見No. 55】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事後回答に「なお、既存道路における資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による影響について、既に多くの車両の通行があり、騒音が発生する環境にあることから、動物（猛禽類等を除く）への影響は小さいと考えています。」とあるが、現状の通行量とは桁違いの台数及び重量の通行量が想定されるにもかかわらず、「影響が小さい」とは到底考えられない。もし、「現状も車両の通行があるから、いくら多くの車両が通行しても動物への影響が小さい」と考えるなら、人間や猛禽類に比べて、他の動物等が騒音の影響を受けない根拠を明示していただきたい。
10	中村寛志委員	<p>【資料 1 意見No. 64】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ミスジチョウを山地生態系の典型種として捉えるならば、里地里山生態系の典型種にはオオムラサキを入れないのは片手落ちではないか。 ・ 事業者が作成した「準備書のあらまし」（長野県版及び全線版）にもオオムラサキの写真が掲載されており、事業者としても典型性の注目種として考えているのではないか。 ・ なお長野県のオオムラサキについては、各地の里地里山で生息しており、回答にあったように予測範囲内にも確認されているが、ハビタットはあまり影響を受けずに保全されると考えている。